

チーム医療の充実を目指して①

呼吸リハビリについて

呼吸器科 内科医長 角 謙介

患者さんを中心に、多職種が互いに連携をとりながら、運動療法や栄養指導、生活支援などを行っていく「包括的呼吸リハビリテーション（リハビリ）」は、慢性呼吸不全患者さんのQOL（生活の質）を改善することが知られています。

当院でも10年以上前からリハビリに取り組んでいます。4週間程度の入院で、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師・栄養士など、様々な職種がスクラムを組んで、患者さんをサポートしています。毎週木曜日に、関連する全職種が集まって個々の患者さんの病状や問題点について丁寧に話し合っています。

各職種の専門領域からの意見はもちろんですが、薬剤師さんが患者さんの在宅での問題点に気付くなど、意外なところから意外な意見が出て治療が大きく進むこともあります。各職種がいい意味で垣根を越えて患者さんのために何ができるかを真剣に考えている証左だと思います。

慢性呼吸不全を担当する病棟では「ながいき体操」や「嚥下体操」などを毎日行っています。また、比較的軽く小さな力でも投げられるフライングディスク（フリスビー）を的の輪に入れる運動リハや、笑いが健康に良いというコンセプトで始めた「笑いヨガ」など新しい試みを積極的に取り入れています。

また、世界に先駆けた臨床研究にも取り組んでいます。現在は、HFNC（ネーザルハイフロー）を用いた運動トレーニングの研究、吉本新喜劇や漫才などの笑いがQOLも高めるのではないかとという研究、NPPV患者さんが睡眠薬を安全に服用できるかどうかに関する研究などを行っています。さらに看護スタッフは慢性呼吸不全患者さんが抱える全人的苦痛を解析し少しでも苦痛を緩和できる端緒を探る研究を行っています。

当院は交通の便も悪く、規模が大きいわけでもありませんが、各職種間、そして患者さんとの距離はとても近く、テーラーメイドの治療が提供できる医療施設と考えております。これからも患者さんのために、職種一丸となって診療に臨んでいく所存です。



当院における包括的呼吸リハビリテーションのイメージ。患者さんを中心に多職種がスクラムを組んで診療に当たっています。



毎週木曜日の包括的呼吸リハビリテーションカンファレンス。全職種が集まって、患者さんの近況を互いに報告しあい、方針を決定・確認します。

チーム医療の充実を目指して②

緩和ケアチームについて

診療部長 佐藤 敦夫



当院でも緩和ケアチームが活動しています。当初はがん患者さんの痛みを中心とした症状緩和を目的に活動を開始しましたが、現在では、非がん患者さんの痛みや呼吸困難、退院準備など様々な問題を対象に活動しています。

緩和ケアって何でしょう？「重い病を抱える患者やその家族の身体や心などの様々なつらさをやわらげることにより、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」という日本緩和医療学会の定義が一番わかりやすい様に思います。

重い病気により、痛み、息苦しさ、食欲不振、吐き気、倦怠感など様々な身体症状が出現します。病気そのものは治らないけれど、症状を和らげられたら助かります。また重い病により、それまで普通に送っていた生活が成り立たなくなります。それは大きな苦痛です。「病気のことは家族にどう伝えようか？仕事はどうしたら良いだろう？今までの家では生活できないけどどうしよう？誰が介護してくれるだろう？医療費は？考えていたら落ち込んで夜も眠れない・・・」生活を再建するには、解決しなくてはならないたくさん問題があり、一人では気持ちが折れてしまうことがあるかもしれません。

当院では精神神経科の先生とご相談しながら、認定看護師、呼吸器科医師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、社会福祉士などで緩和ケアチームを運営しています。痛みや、呼吸困難などの身体症状だけではなく、精神的な問題や、経済的な問題を含めお困りのことがありましたら、緩和ケアチームにご相談いただくと少しはお役に立てるかもしれません。一辺相談に乗ってもらいたいと思われたら、主治医の先生や、看護師に気軽にお声がけください。

チーム医療の充実を目指して③

NST・摂食嚥下について

呼吸器科 医師 橋 洋正

当院では栄養サポートチーム (NST: Nutrition Support Team) を組織し、入院中の患者さんの栄養に関して相談や介入を行っております。呼吸器科医師、小児科医師、看護師、栄養士、薬剤師、言語聴覚士、臨床検査技師など多職種チームで問題の解決にあたります。認定 NST 研修を終了したスタッフは現在 7 名おります。週一回の対象患者さんの病棟回診や月一回の全体カンファレンスなどを定期的に行っております。依頼の内容は、経管栄養のメニュー選定、必要カロリーの計算、下痢や便秘など排便コントロール、経口摂取量のアップ、点滴栄養の調整、嚥下評価など多岐にわたります。当院は高齢者や神経難病など嚥下に問題が有る患者さんも多く、年々 NST の必要性が増しております。嚥下機能の詳細な評価が必要な際は嚥下内視鏡を行い、食事形態やより安全な食べ方の指導に役立てています。嚥下リハビリにも積極的に取り組んでおります。今後も嚥下や栄養状態の改善などを通じて、より良い医療に貢献してまいります。



チーム医療の充実を目指して④

「重症心身障がい児（者）病棟における

呼吸ケアサポートチームの活動について」 小児科医長 徳永 修

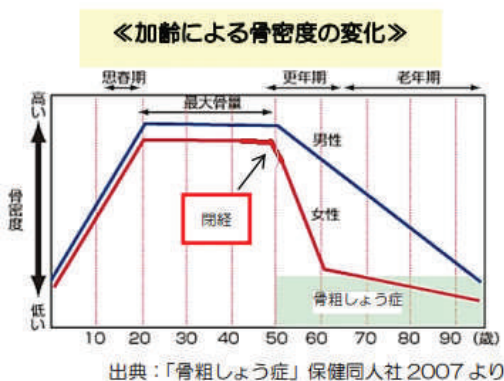
当院の重症心身障がい児（者）病棟では重度の重複障がいを抱えた120名あまりの皆さんが長期にわたる入院生活を送っておられます。これらの皆さんが共通して抱えておられる身体的な合併症として、「食べる」機能の障害（＝摂食・嚥下障害）とともに「息をする」機能の障害（＝呼吸障害）が挙げられます。「おいしく、楽しい食事」と「安楽な呼吸」を提供することは私たち医療スタッフの大切な役割であると考えています。これまでも重症心身障がい児（者）の診療に携わるスタッフがその都度、連携しながら呼吸ケアに当たってきましたが、昨年1月からは「重症心身障がい児（者）病棟呼吸ケアサポートチーム」を組織し、多職種スタッフが協働した、継続的な介入をスタートしました。本チームは小児科医師、病棟看護師のほか、リハビリ科スタッフ（PT、OT、ST）、臨床工学技士によって構成されており、呼吸管理に課題を有する患者さんを毎週1名ずつ抽出して、ベッドサイドにおいて意見交換を行い、課題解消に向けた有効な方策（例えば、日々の姿勢管理や機器による排痰療法の導入、気道加湿方法の変更など）を検討し、一定期間の介入後にその有効性を評価しています。これまでの継続した関わりにより、下気道感染等による呼吸状態悪化頻度の減少、呼吸努力軽減に伴う栄養・睡眠状態の改善などの効果が確認されています。今後も活動を継続し、障がい児（者）の皆さんが少しでも安定した体調で日々の生活を送っていただけるように支援していきたいと思っております。



丈夫な骨で健康に長生きしよう!「骨粗しょう症」は予防が大事!

副診療放射線技師長 宇谷 博文

現代は昔に比べて寿命が延びた分、ただ長生きを目指すのではなく、自立して健康に過ごせる「健康長寿」の重要性が高まっています。そのためにも気にかけるのは体の中でも大事な器官のひとつである体を支える骨です。特に女性の場合、50才前後から女性ホルモンの分泌が減少する影響で骨密度は低下していきます。「寝たきり」を予防するためには定期的に骨密度検査を行うことが推奨されています。骨密度検査とは、骨の中にあるカルシウム・マグネシウムなどの成分が、どのくらいの量があるのかを計測するものです。この成分が不足してくると骨がもろくなり、骨折しやすくなります。高齢者では治りが遅いため、骨折が原因で寝たきりになってしまう人も少なくありません。また大腿骨頸部骨折は生命予後（寿命）を短くすることも分かってきました。ですから骨密度を測定することは、中高年以上の女性に多くみられる骨粗しょう症の早期発見、治療効果の判定などにも非常に重要です。南京都病院ではDEXA（デキサ）法による精度の高い骨密度検査を行っています。この検査は5分ほどベッドに寝ていただくだけで正確な骨密度がわかります。費用も保険でまかなえて3割負担で1500円程度です。骨密度は年々減っていくものですから半年から一年ほどの間隔で定期的に測定すると、どの程度の割合で骨密度が減少するのかがはっきりします。骨密度減少は個人差が大きいのでぜひとも定期的に骨密度を測定することをお勧めします。気になる方は当院主治医もしくはかかりつけ医師にご相談いただければ南京都病院にご紹介いただくことも



できますので一度ご検討されてはいかがでしょうか。

地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

誠実な医療を提供します

山野医院 院長 山野 元嗣 先生

内科・胃腸科・
放射線科



当院は1973年11月8日に先代山野 究(現名誉院長)により城陽市役所西角に開院し、今年で45年目になりました。2009年4月1日から山野元嗣(現院長)、内田由里子(現副院長)の2診体制にて地元

密着した地域医療を提供するのはもちろんのこと、先代より引き継がれている「誠実な医療を!」をモットーに何より患者さんの立場に立った身近な診療所を展開しております。病院にわざわざ行かなくても、高血圧・高脂血症・糖尿病など一般内科はもとより胃カメラ・心臓の病気・小外科含めて地域の方が、日頃遭遇するであろうごありふれた病気に関してわかりやすい医療を提供できたらと考えております。今後ともよろしくお願いたします。

また、南京都病院には、日頃より呼吸器科・神経内科・放射線科・CT・MRIなど中心にご無理をお願いしていつも快くお引き受けくださり大変感謝いたしております。先代も丸々太って元気です!

- 城陽市寺田東ノ口47
- TEL 0774-52-5015

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後 6:00~8:00	○	○	×	○	○	×	×

- 休診日 日・祝、水・土の午後



～ご利用者、ご家族の人生に深く、温かく寄り添える看護を目指して～

医療法人徳洲会 城陽訪問看護ステーション

訪問看護



居宅支援事業所も併設しています。
随時ケアマネジャーの支援が受けられます。
写真左はケアマネジャー

『城陽訪問看護ステーション』は宇治徳洲会病院の二つ目のステーションとして城陽市寺田に平成29年10月1日開設いたしました。

一つ目の『宇治徳洲会訪問看護ステーション』は看護師10人、理学療法士(病院との兼務)、事務員1人で、構成されていましたが、そのうちの4人の看護師が城

陽に移りました。今は小さなステーションですが、少しずつ大きくしていきたいと考えています。

私たちは、今まで関わったご利用者・ご家族から数え切れないほど多くの事を学ばせていただきました。その感謝の気持ちを看護でお返しできたいという思いで、訪問しています。どんな状態の方でも家で過ごしたいという思いがあればその思いに添えるよう最大限の努力をしていきたいと思っています。「家に帰ってきてよかったなあ」「家で介護が出来て良かったなあ」と思っていただけるよう支援させていただきます。

ご利用者、ご家族の人生に深く、温かく寄り添える看護を目指して、そしていつの日かこの地になくてならない存在になれるよう日々研鑽したいと思います。

- 城陽市寺田樋尻12番地の83
- TEL/FAX 0774-54-7577
- 営業日/営業時間
月～金(祝日・年末年始は除く)
8:30~17:00
(24時間緊急対応可能)

- ケアマネ事業所
- TEL 0774-54-7578
- FAX 0774-54-7577



臨床工学部門の仕事について

臨床工学技士 白井 亮一

ご覧頂きありがとうございます。臨床工学部門と、所属する臨床工学技士についてご紹介させていただきます。

1. 臨床工学技士とは？

歴史が浅く（30年余）、まだ認知度が低いですが、コメディカルの一員です。「機器のハイテク化に伴い、それを専門に扱う技術者の必要が生じ、誕生した国家資格」です。「医師・看護師等が本来業務に集中できる様、機器全般の仕事を請け負う」職種とも言えます。

2. 当院での業務は？

病棟にて、呼吸器のラウンド・回路交換を軸に、機器の①使用中サポート②点検・使用準備③勉強会開催、などを行い、日々医療安全向上に努めております。

病棟での仕事がほとんどの為、外からはイメージが付きにくい職種ですが、日々スタッフとともに奮闘しております。



①使用中サポート

②点検・使用準備



③勉強会開催



3. 今後について

4月から1名増員となり2名体制となるため、機器に関するさらなるサポートの充実と医療安全の向上に努めていきます。『収穫の時に立ち会えなくても、蒔けるだけの種を蒔いておく』をモットーに、今後の南京都病院、患者さんのために今できることをしっかりやっっていこうと思います。

新採用職員紹介

教育担当看護師長 金田 淳子

平成30年4月1日付で辞令を受け、看護師として第一歩を踏み出しました。
 高い倫理観に基づき、南京都病院の看護職員として誇りをもって精進していきたいと思っています。
 どうぞよろしくお願いいたします。



『健康フェア』を開催します

南京都病院は地域の皆さんの健康増進のお役に立ちたいと思っています。
 『健康フェア』～笑顔は健康なからだから～開催します

日時 平成30年5月19日(土) 10時～16時

場所 アルプラザ城陽 1階プラムコート

内容 骨密度測定・血圧測定・呼吸機能検査・血圧年齢測定・キッズ写真コーナー等(無料)

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR学研都市線 京田辺から 徒歩20分
- JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

＊...各駅より送迎車あり

診療科のご案内

- 呼吸器科
 - 神経内科
 - 小児科
 - 内科
 - 外科
 - 消化器科
 - 呼吸器外科
 - 循環器科
 - 整形外科
 - 皮膚科
 - リハビリテーション科
 - 放射線科
 - 麻酔科
 - 歯科
 - 耳鼻いんこう科 (休診中)
- (入院患者のみ対象) (入院患者のみ対象)

独立行政法人国立病院機構 南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原11番地
 TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
 URL <http://mkyoto-hosp.jp/>

地域医療連携室
 ●ダイヤルイン 0774-52-0114 (内線222)
 ●直通FAX 0774-58-0270
 ●E-mail renkei@mkyoto.hosp.go.jp